

巻頭言

富山県高等学校教育研究会
情報部会長 林 成佳

富山県高等学校教育研究会情報部会の会員各位におかれましては、日頃から本県高等学校情報教育ならびに本部会活動にご尽力をいただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。また、本部会の事業に際して富山県教育委員会県立学校課を始め、富山大学教育実践研究科等関係機関からもご指導をいただいていることに対し、厚くお礼を申し上げます。

さて、4月より新学習指導要領が年次進行でスタートしました。情報化、グローバル化が進展するこれからの時代の流れを踏まえ、教科「情報」につきましては、「情報Ⅰ」が共通必修科目となり、「大学入学共通テスト」（以下共通テスト）においても2025年1月実施の共通テストより「情報」が新教科として出題されます。現在、富山大学や金沢大学、富山県立大学など各国公立大学や私立大学で「情報Ⅰ」を入試に入れる方向性が発表されています。また、共通テストの試作問題も発表され、「情報Ⅰ」の試作問題の内容は、日常的な事象や社会的な事象と情報との結び付きを重視して作問するという方針通りで、出題者の工夫を感じるものとなっているようです。知識のみを見る設問は少なく、深い理解をとまなっているかを問題文や資料、データをもとに考察させる設問が目立ち、教科書を一通り学習しただけでは回答は難しいのではと分析されていました。共通テスト対策を考えてトレーニングする時間をしっかり確保することが必要かもしれません。各校においては、まだ大まかな情報しかない中で、共通テスト対応として各校での教育課程編成で3年次における「情報Ⅰ」の共通テスト対策をどうするか、また「情報Ⅰ」の実施学年を再検討する必要があるかなどが協議されたかと思えます。

また、「情報Ⅰ」の授業に関しても、どのように授業を組み立て実践していけばいいのか、特にプログラミングの学習では、中学校技術・家庭科 技術分野の内容「D情報の技術」の学習を踏まえたプログラミングを扱うことになり、学習指導要領には学校や生徒の実態・目的に応じて適したプログラミング言語を選択するよう明記されています。各出版社の教科書で扱う言語も、Python や JavaScript、Excel VBA、Scratch 等いろいろな言語に対応して出版されています。どのプログラミング言語で教えるにしても、日々疑問や不安を持ちながら、教材研究をして授業を進めておられるのではないかと思います。6月の総会で高教研情報部会の理事に「情報Ⅰ教育研究会」のメンバーに入らせていただくことを承認していただきました。この研究会では、様々な授業実践・研究を行い、今年度はその授業の実践事例をまとめた冊子を作成され、年度末に各高校に配布する予定とお聞きしております。この研究会の今後の取り組みにも大いに期待をし、本部会ではいろいろなことを話題にして先生方の不安や疑問を少しでも無くし、先生方の指導力の向上と質の高い教育が実践できるように取り組んでいきたいと考えております。

今年度11月に実施した研究発表大会では、南砺福野高等学校 森田 大翔先生、情報Ⅰ教育研究会の大門高等学校 中西 純先生の研究発表と同じく中西先生から「全国高等学校情報教育研究大会」の参加報告があり、さらには東京都立町田高等学校指導教諭 小原 格先生から「情報Ⅰにおける授業の進め方と実践事例」と題して講演が行われ、大変有意義な研究発表大会となりました。心から感謝を申し上げます。これらの内容は今後の各学校での指導改善に生かすなど、情報教育の一層の充実を図るための糸口になることを期待しております。

終わりに、関係各位におかれましては、本部会の一層の充実、発展のためのご理解、ご協力を引き続きお願い申し上げます。